



第20回自治労青年女性中央大交流集会

北海道実行委員会ニュース

発行

【第4号】

2016年5月6日
第20回自治労青年女性中央大交流集会
北海道実行委員会

自治労北海道本部青年部 座長養成講座

職場実態から、原因・背景を考え、仲間とともに取り組もう！

道本部青年部座長養成講座が
3月12日(土)～13日(日)に
開催され、59単組・総支部112人
の参加がありました。

『労働者としてのモノの見
方・考え方を養うことで職場の
オカシイに気づき、職場・単組
での実践につながる』を獲得目
標とし、前九州地連青年部長の
石口敏広さんに「職場・社会を
どうみるか」と題し講演をして
いただきました。

講演では、実態点検により職
場で起きていることを確認し、
次にその原因・背景を考え、そ
して社会を考えること、そのた
めには「モノの見方・考え方」
を身に付ける必要があるという



講演をする前九州地連青年部長の石口さん

ことを学びました。JTB職員がバ
スの手配を忘れてしまった事件を
例に挙げ、「ミスをした人が悪い」
で済まさずに、その背景に何があっ
たのか？もしかしたら、休み間もな
く毎日夜中まで残業していて手が
回らなかったのかも知れないとい
うように本当にミスした人だけが

悪いのかという背景も考えてみないと
問題の本質は見えてこないということ
を学びました。最後に仲間の実態から運
動の実践に結びつけていくためには、
「何のために？」 「何を？」 「いつ？」
「誰と？」 「どのように取り組むのか？」
という目標を明らかにすることや一緒
に取り組む仲間を作っていくことが改
善の第一歩につながるということを学
びました。

分散会報告では、2つの分散会で出さ
れた特徴的な声を報告してもらい、全体
で共有しました。その中では、「業務量
に対して人が少なく対応できない状況
が続いているのに人員は増員されない。
体調が悪くても、忙しいので無理出
勤しないといけない」「評価制度におい
て、ボランティア活動をしなないとマイナ

ス評価を受ける項目があり、プライ
ベートで対応するべきボランティア
が評価対象になっていることはオカ
シイ」など、労働者としての視点を
学んだことで、自分たちの置かれてい
る状況を考えるきっかけにつながり、改善のた
めには多くの仲間と本音で話し、職場で実
践していこうという強い決意を確認しま
した。

職場実態討論から、 職場のオカシイに気づき、仲間の思いを 地方協・中央交へ

職場をさまざまな視点から見ること
で、職場の「当たり前」が「オカシイ」こと
に気づくことができます。「労働者として
のモノの見方・考え方」から、職場で行わ
れているさまざまな合理化に目をむけ、各
単組・総支部で職場実態討論を行い、仲
間の熱い思いをしっかりと地方協夏期交・中
央交に持ち込もう！



交流し、まなびあい、
あらゆる合理化を跳ね返し、
地方自治確立にむけ産別闘争を組織しよう！

職場レポートに取り組んでみよう♪

なぜ職場レポートに取り組むの？

職場レポートに取り組むことで『自分の職場状況を考える（見つめ直す）』ことができます。普段仕事をしていては、考えることができません。また、客観的に見直すことで、今まで「当たり前」と思っていたことが「オカシイ」と気づくことができます

では、実際に職場レポートを書く時にどうやって書いていますか？

「めんどくさい」「どこまで書いたらいいのかな？」など書いていない職場の実態や不満・不安な思いはありませんか？

そういったことも職場レポートに書き、各地方協夏期交・中央交へ思いを持ち寄り、仲間と共有する中から、何か解決への道が見えてくるかもしれません。

職場レポートを書くポ・イ・ン・ト!!

1. 読んだ人が、自分がどんな仕事をしていて、どんな雰囲気職場かイメージ出来るように書こう！
2. いつも感じている不満や不安、疑問、改善したいことを素直に書こう！
3. 現象面（超勤が多い、休めないなど）から、何が問題なのか？どうすれば改善できるのか？自分には何ができるのか？など原因や自分なりの考えを書こう！
4. 周りの仲間はどう思っているのか？どんな話をしているのかなど仲間の声を書こう！

各単組・総支部での事前学習を m(_)m

各単組・総支部にて職場レポート等を用いた事前学習をお願いします。事前学習をとおして、「なぜそのことが職場で起きているのか？」など実態をより深く掘り下げ、課題解決にむけたきっかけになったり、参加者が自信をもって集会に参加できるようにつながっていきますので、ぜひ取り組みましょう！

また、職場レポートに取り組むのが難しい場合は、「Let's実態討論 あなたの職場はどう？～みんなの声を聴いてみよう～」を使って仮想の職場での実態討論することで自分の職場を見返すきっかけにしてみましょう。